

## イーゴリ・ユルゲンス:ロシアの未来

### 1. 解説

CIPPS と研究交流を行っているロシアの現代発展研究所 (Институт современного развития : INSOR) のユルゲンス所長は、2011年2月16日、ロンドンのヨーロッパ改革センター (Center for European Reform) 主催のセミナー「ロシアの未来」において基調講演を行った。今回同センターのウェブサイト<sup>1</sup>で講演の様様を視聴し、興味深い内容が含まれていることから以下その概略を報告する。

講演では、まずロシアにおける近代化の概念と、スコルコヴォ・イノベーションセンターの位置づけが説明され、次に、現在、ロシアの数多くの専門家が組織されて今年8月の完成を目指し、包括的かつ具体的な近代化のプログラムが作成されていることが明らかにされている。

そして現在のロシアにおける近代化の阻害要因とそれに対する対処方法について述べられ、最後に2012年以降誰が大統領になるかはっきりしない状況が不安定性を高めており、ロシアの損失につながると指摘されている。

### 2. 要旨

#### (1) 近代化の理論

- i. 現在ロシアで進められているのは、5つのブレークスルー産業に集中する「垂直的近代化」と規制環境等を全体的に見直す「水平的近代化」である。
- ii. スコルコヴォ・イノベーションセンターはこの近代化理論のパイロットプロジェクトとして位置づけられて、既に様々な良い影響を及ぼし始めている。

#### (2) 近代化の実践

現在22の専門家グループが「2020年までのロシアのイノベーション」と題する包括的、具体的な近代化のステップを作成しており、今年8月に完成後国家計画となる予定である。

#### (3) ロシアの状況

- i. 近代化の最大のリスクはロシアの投資環境の問題である。
- ii. 近代化に反対する最大勢力は、改革に疲れて安定を求める国民である。
- iii. 最近欧米企業のロシア投資案件が増えている一方、ホドルコフスキ事件等阻害要因も残る。
- iv. 2012年以降、誰が大統領になるか不明確なことが不安定性を高めており、近代化に悪影響を及ぼしている。

<sup>1</sup> <http://www.cer.org.uk/>

### 3. 講演概要

本日は、①近代化の理論；我々が近代化をどのように捉えているか、②近代化の実践；近代化計画をいかにして実現しようとしているか、③ロシアの現状；近代化のリスク及び専門家が現在のロシアの状況をどう見ているかの3点に絞って話す。

#### (1) 近代化の理論

##### a. 垂直的近代化と水平的近代化<sup>2</sup>

世界経済危機によりロシアの2009年のGDP成長率はマイナス9%となったことから明らかのように、ロシアは他の国よりも危機の影響を受けた。それによってメドベージェフ大統領は近代化の必要性を強く訴えるようになった。

メドベージェフ大統領が主張する近代化は「垂直的近代化」と言うべきもので、ロシアが競争力を持ち得る製薬、航空、ITなどの5つの産業分野においてブレークスルーを起こそうとするものである。そのために、それらの分野にピンポイントで投資し、税制優遇措置を適用し、インセンティブを与えることによって発展を促し、さらに経済全体の近代化の“機関車”としての役割を担わせようとするものである。

もう1つの近代化理論は「水平的近代化」で、これは全体的に規制環境を緩和し、税制、法律、行政執行の在り方などを見直して経済全般を活性化して行こうとするものである。

そして、我々リベラルな立場の専門家は、政治的自由化なしには近代化はあり得ないと主張している。人々に自由を与え、政治、社会に創造的な雰囲気醸成し、自由な競争が行われる政治モデルを作り出すことによってのみ近代化は成果を上げることができると考える。

##### b. スコルコヴォ・イノベーションセンターの位置づけ

この近代化理論の実践例がスコルコヴォ・イノベーションセンターである。これは非常に興味深いプロジェクトで、スコルコヴォにおいて、今述べた全て近代化理論がテストされようとしている。

例えば、税制優遇措置やインセンティブなどを全産業に一気に適用しようとするとう混乱につながる。そこで、まずスコルコヴォをパイロット・ケースとして、プロジェクトに参加する企業に対してそれらの措置を適用する。そこで効果の上がったものを5つのブレークスルー産業に「垂直的」に適用するとともに、「水平的」にも全産業に拡大して行こうという方法を採用するというものである。

現段階ではスコルコヴォはまだ紙の上に存在するだけで、センター自体も建設中だが、スコル

---

<sup>2</sup> 垂直的近代化及び水平的近代化の考え方の詳細については、ロシア関連メモNo.23「イーゴリ・ユルゲンス：垂直から水平へ—たとえ危機があつても数年経ても近代化を遅らせることはできない—」（2010年1月8日）参照。

コヴォはもう既にいくつかの興味深い変化をもたらしている。その例は最近施行された移民法の改正で、これはスコルコヴォに来る外国人だけでなくすべての外国人にも適用される。さらに周辺のインフラストラクチャーの改善作業も着手され、ロシアの税関や入国管理にも良い影響を与えている。そのことはドボジェドボ国際空港やシュレメチェヴォ国際空港など様々なところで実感される。

## (2) 近代化の実践

次は近代化の実践、すなわち近代化の計画をいかにして実現するかという点である。

ロシアでは、良心的な人達が近代化理論を実践するために誠実に活動している。始めは近代化されたロシアを作り上げようという「意思の連合」に過ぎなかった。法規制の改正には時間を要する。2008年末にメドベージェフ大統領は近代化に関する指示を出したとき、プーチン首相はそのすべてに反対はしなかったが、あまり気が進まない感じで“イエス”と答えた。

今、モスクワやその他の都市において、最も賢明かつ知的で献身的な人々から構成される 22 のグループ<sup>3</sup>が、今年 8 月までに「2020 年までのロシアのイノベーション」という計画の作成作業を進めている。これは単なるスローガンでも机上の理論でもない。その青写真に従ってイノベーションを実現する極めて実地的なステップを提案するものである。

その計画では、先ほど述べた「垂直的近代化」と「水平的近代化」以外にも、政治的自由化、社会的側面やテクノロジーの問題などすべての領域がカバーされる。そして、それはロシア人の生活を改善するために純粋に技術的なプラットフォームを創出するだけのものではない。

22 のグループには、年金制度改革を取り扱うグループ、保健システム改革を担当するグループ、近代化のプロセスに市民社会がどのように関わるかを検討しているグループなどがあり、計画作成には非常に多くの人々が関与している。人権活動家も含まれており、一部反対勢力も含まれている。私もリーダーとして関与している。

「2020 年までのロシアのイノベーション」は 8 月までに取りまとめられ、政府及び大統領に提出された後国家の計画として採用される。

## (3) ロシアの現状

### a. 近代化のリスク

このようにロシアでは近代化へ向けた優れた計画が作成されようとしており、素晴らしい大統領令も出され、パイロットプロジェクトも開始されている。

だが、ロシアの近代化には大きなリスクが存在する。それは現状のロシアの投資環境である。

---

<sup>3</sup> このグループの構成及び INSOR との関係については不明。これまで INSOR からは何ら公表されていない。

この点については率直に言わなくてはならない。正直に言ってロシアでは恐るべき汚職が未だに蔓延している。

歴史的リスク、地理的なリスクも存在する。歴史的リスクとは、社会の近代化に対する懐疑的な態度、過去の経験から生じる変化に対する不信感のことである。支配階層の間の主観的要因も存在する。ホドルコフスキ事件は明らかに近代化の阻害要因となっている。我々はこれらの問題を克服しなくてはならない。

近代化に反対する最大の勢力は安定を求める国民である。ロシアではソ連崩壊以降 20 年以上に渡って改革が行われてきたため、国民の多くは「もう放っておいてくれ」、「自分は子育てに専念したい」、「少し給料が上がればいい」、「あなたの近代化のスローガンにはうんざりだ」、「自分はもう疲れた」などと感じている。

改革を進めようとするロシアの指導層はそのような国民の安定を求める気持ちを完全に理解し、対処しなくてはならない。そのために我々は「近代化は絶対的に必要である。近代化しなくては今年のような 4%成長を続けることは困難で、ロシアは更に他国に遅れを取り、G8 のカテゴリーはさらに形だけのものとなり、G20 についても同様のことが起こり得る。」といった一連のスローガンを提起している。

## b. 投資環境の状況

投資環境に話を戻すと、現在は複雑な状況となっている。一方で非常にポジティブなニュースが増えている。最近 BP はロスネフチと歴史的な戦略提携で合意したが、その他にもエクソンが黒海探査プロジェクトに投資を決定し、シスコがスコルコヴォに研究センターを設立することを決定した。また、ボーイングはモスクワに新しいエンジニアリングセンター建設を決め、シーメンスがベルリン-モスクワ間の高速鉄道建設を決定した。これは数十億ドルの巨大なインフラ・プロジェクトである。さらに、フランスの Group des Eaux が黒海地域でロシア企業と省エネ技術を活用した巨大な浄水システムを建設することで合意した。

だが、その一方でホドルコフスキ事件があり、また昨日もレベデフ氏がロシアに再入国できなくなることを恐れてロンドン訪問をキャンセル<sup>4</sup>したことが発表された。これらはそれぞれが非常に複雑で難しい問題で、今日ここで詳しく議論する余地はないが、これらの問題はロシアの投資環境に非常に悲観的な要素となっており、ロシアでビジネスを行おうとする企業家にとって無視できない問題となっていることは明らかである。

---

<sup>4</sup> アレクサンダー・レベデフ (Лебедев, Александр Евгеньевич) 氏はロシアの大富豪、オリガルヒ。英国の新聞 Independent、London Evening Standard のオーナー。ロシアの反体制派 Novaya Gazeta も一部保有し、プーチン首相に対し批判的な立場を取ると言われている。同じくレベデフ氏が保有する National Reserve Bank が 2010 年 11 月に武装警官によって強制捜査を受けた。レベデフ氏は今年 2 月 16 日にロンドンで開催された London School of Economics 主催の経済フォーラムに出席予定であったが、一旦出国すると再入国できなくなる恐れがあるとして出席を直前にキャンセルした。

### c. 大統領選挙の影響

ロシアの投資環境を阻害している要因の一つは 2012 年 3 月までに消滅するだろう。それは誰が大統領になるかはっきりするということである。ロシアには 2 つのグループが対立している。1 つのグループは安定と安穏な生活を求め、近代化や改革に反対するグループである。これは現在多数派であり、彼らは大統領選挙ではプーチン氏に投票するだろう。もう一方は、民主化と改革を求めるグループで、現段階では少数だが影響力があり数を増しつつあるグループである。このグループはメドベージェフ氏に投票するだろう。

メドベージェフ氏とプーチン氏が繰り返している“マントラ”、すなわち「2 人のうちどちらが 2012 年の大統領選挙に立候補するかは、ロシア国民に利益の観点からよく話し合っただけで今後決定する」ということはもはや現実的に機能し得ない。それは 2 人をレームダックにするだけである。

これは企業にとって極めて重いことである。企業はビジネスを行うためには明確なルールを必要とする。故に 2012 年以降のロシア政府がどのような政府になるのかを知ることが必要である。ロシアが目指すのは安定か進歩か、政府が企業に何を求めるのか、ロシアは西側諸国のような国を目指すのか、中国のような国になるのか等、重要な論点が明確にならないうちはロシアでは安定成長の要素は生まれず、近代化の方向性も不明確とならざるを得ない。

このように 2012 年以降誰がロシアを率いて行くかはっきりしていないことが不安定性を高めている。そのような不確実性がロシアに長引く限り、間違いなく近代化の計画に影響を及ぼし、遅かれ早かれ損失につながる恐れがある。

## 4. 質疑応答(抜粋)

### a. 近代化を巡る社会勢力について

ロシアには近代化に対する態度において 2 つの相対する勢力が存在する。1 つのグループは安定と安穏な生活を求め、近代化や改革に反対するグループである。他方は経済成長を維持するには近代化が不可欠だと考えるグループである。現在は前者が多数派を占めている。

近代化に反対する勢力はエネルギーについても独特の考え方を持っている。それはエネルギー憲章条約から脱退し、ウクライナ、ベラルーシに対し強硬姿勢を取り、自己主張をさらに強めるべきであり、我が国のイメージへの影響は考慮する必要がないとするものである。

それに対し、近代化を進めるべきとする勢力は、ロシアは国際市場に統合されることによってのみ利益を得ることができると考え、国際的ルールを受け入れることを主張する。実は殆どのエネルギー企業も IPO によって海外の株主を得たいと考えている。

2012 年の権力継承において何が起きようとも、2 つのグループはロシアのシステムの中に存在し続けるだろう。

#### b. 中東革命の影響について

北コーカサスは、高い失業率、頻発する暴動、汚職の蔓延などエジプトの状況と似ている。我々は開発の進め方、法の支配、定期的なリーダーの交代など、エジプトから注意深く教訓を学ばなくてはならない。

#### c. ホドルコフスキ事件について

ホドルコフスキ：ソビエト後の最大の悲劇である。彼の釈放が早ければ早いほど彼を投獄した人にとっても我が国の司法制度にとっても良い結果をもたらす。

#### d. ロシアの WTO 加盟について

ロシアが WTO 加盟交渉を開始してからもう 17 年間も経っている。

(a) ロシアは大国であり、国際的ルールがロシア抜きで決められるべきではない

(b) WTO 加盟によって投資家保護措置が適用されるため FDI の増加につながる

以上の 2 点の理由から、ロシアは WTO に速やかに加盟すべきである。最近ロシアが特に改善した点は知的所有権の分野である。この点ではロシアは中国やインドよりも進んでいる。

#### e. ロシア-EU 関係

今年夏に行われる予定のロシア-EU 首脳会談で、近代化パートナーシップが合意に達する見込みである。さらに数多くの具体的なプロジェクトも決定されることも期待される。ドン川の浄化やモスクワ高速鉄道建設、エカテリンブルグのエネルギー効率向上などの基幹プロジェクトが前進する可能性がある。

2012 年にプーチン氏が大統領になったとしても、彼はこのようなイニシアティブを止めることはない。だが、多少雰囲気は変化するかもしれない。プーチン首相は来週ブラッセルを訪問し、パートナーシップ・協力協定に関する 12 回目の交渉を行う。協定が締結され、ロシアが WTO に加盟したとき、ロシアは EU と共通経済圏を形成するだろう。

以上